

添田町議会議員の定数調査 特別委員会調査報告書

令和3年3月

目 次

1	名称	・・・ P 2
2	目的	
3	期間	
4	構成	
5	設置の経緯	
6	調査・検討結果	
7	調査及び結果までの流れ	・・・ P 3
8	定数委員会の活動状況	
9	研修会・基礎調査等の概要	・・・ P 4
	（1）研修会の開催	
	（2）基礎調査	
10	議員定数のアンケート調査	・・・ P 6
	（1）集計	
	（2）回答	
11	町民との対話	・・・ P 7
12	団体との対話	・・・ P 10
	（1）団体との対話での意見・要望	
	（2）アンケート結果	
13	定数委員会の結論	・・・ P 12
	（1）討論	
	（2）採決	
	（3）定数の決定	
	（4）各委員の意見	
14	終わりに	・・・ P 14

1 名 称

添田町議会議員の定数調査特別委員会

2 目 的

議員定数に関する調査及び決定

3 期 間

令和2年3月19日から令和3年3月19日まで

4 構 成

全議員 13 名

委員長	岩 本	正
副委員長	山 本	文 隆
委員	緒 方	裕 子
委員	久保田	実 生
委員	吉 木	清 文
委員	高 瀬	知恵子
委員	合 戸	精 一
委員	永 沼	嘉代子
委員	武 貞	誉 裕
委員	中 嶋	浩 二
委員	小 川	浩 一
委員	白 石	雄 二
委員	畠 田	勝 廣

5 設置の経緯

現在の添田町の議員定数は、平成18年4月より「13人」に条例を改正し、それ以降、定数「13人」で4回の議会議員一般選挙が執行された。

本町における少子高齢化と人口減少は著しく、平成18年4月の人口は12,375人であったが、平成30年4月には10,097人となった。また、令和2年4月には9,526人で、高齢化率は42.45%である。

そのような中、本議会は、平成23年に「議会のあり方を考える特別委員会」、平成27年に「議会改革調査研究特別委員会」を設置し、議員定数について論議したが、いずれも現状維持の「13人」で決定された。

議員定数の判断基準は、人口、財政規模、議員活動、近隣自治体の議員定数など様々であり、合理的な判断基準は無いに等しい。そこで、広く町民の意見を聴きながら議員定数について改めて調査・検討を行うため、令和2年第1回定例会において、全議員13人をもって組織する「添田町議会議員の定数調査特別委員会」（以下「定数委員会」とする）を設置した。

6 調査・検討結果

添田町議会議員の定数は、令和4年（次期任期）より11人とする

7 調査及び結果までの流れ

- ①工程表の作成
- ②議員研修会の開催
- ③町民アンケートの実施
- ④町民及び団体との対話
- ⑤調査資料の作成
- ⑥各委員の意見の集約
- ⑦結果の公表（令和2年12月目標）
- ⑧報告書作成

8 定数委員会の活動状況

開催日	内 容
第1回 令和2年3月19日	議題：正副委員長の互選について 委員長 岩本 正 副委員長 山本 文隆 ※各委員の指名推薦により決定。
第2回 令和2年7月3日	議題：調査方法とスケジュールについて 今後の進め方について協議。調査方法などを決定。 調査方法：議員研修会、町民アンケート、町民及び団体との対話
第3回 令和2年7月20日	議題：議員研修会について 研修内容を確認。 議題：町民との対話について 「第2回住民と議会のカタリ場～未来会議～」の中で、議員定数について話し合う時間を設定し、対話を実施することを決定。 議題：団体との対話について 周知の方法や対話の時期を検討。議会だよりや組回覧等で団体を募集し、対話の時期は議員研修会、町民アンケートの実施後とすることを決定。
第4回 令和2年8月24日	議題：町民との対話について 「第2回住民と議会のカタリ場～未来会議～」の中での進め方や対話時間などを検討。 議題：団体との対話について 対話する団体の決定時期を検討。9月上旬で決定。 議題：アンケートの実施について アンケート項目、同封する案内文書及び発送作業について検討。
◆議員研修会の実施 （詳細は3ページ） ・令和2年8月31日（月）場所：添田町役場（委員会室） 【内容】 「これからの議会のあり方」 全議員が参加し、廣瀬克哉先生によるリモートでの研修会を実施。	

第5回 令和2年9月17日	議題：団体との対話について 申し込みのあった団体を確認。開催日時等を協議。 申込団体（4団体）：行政区長会、畑川を考える会、添田東女性の会、 添田町女性ネットワーク
第6回 令和2年10月2日	議題：町民との対話について 対話の場となる「第2回住民と議会のカタリ場～未来会議～」の日程を確認。 議題：団体との対話について 各団体の開催日時等を確認。
◆町民との対話実施 （詳細は6ページ） ・令和2年10月13日（火）19時～ 場所：中元寺公民館 ・令和2年10月14日（水）19時～ 場所：彦山地区総合センター ・令和2年10月15日（木）19時～ 場所：津野公民館 ・令和2年10月16日（金）19時～ 場所：オークホール	
◆団体との対話実施 （詳細は9ページ） ・令和2年10月27日（火）19時～ 対話団体：行政区長会 ・令和2年10月28日（火）13時30分～ 対話団体：添田東女性の会 添田町女性ネットワーク ・令和2年10月28日（水）19時～ 対話団体：畑川を考える会 ※場所はいずれも添田町役場（委員会室）	
第7回 令和2年11月20日	議題：これまでの総括について アンケートの結果、町民との対話、団体との対話の意見を集約。 議題：結論の出し方・結果公表について 各議員の意見集約や、まとめの手順などについて協議。
第8回 令和2年12月10日	議題：議員定数の決定について （詳細は11ページ） 採決により次期からの定数を決定。

9 研修会・基礎調査等の概要

（1）研修会の開催

議会活動、議員定数等の議論を深めるため、「これからの議会のあり方」と題し、法政大学副学長廣瀬克哉先生による研修会を開催した。コロナ禍ということで、東京とのリモート研修会となった。

「議会の存在意義、議会改革が進んでも議会不要論が消えない現状、議員定数について」等が主なテーマであった。議員定数について、「住民の関心度が高ければ、少数の議員で自治体運営は可能。しかし、現在の日本の状況では、議員を減らすことは悪循環に陥る可能性が高いと考える。」と話された。

◆議員の感想

- ・議会の機能や、これからの議会に求められていることなどの話しは、わかりやすく共感できた。
- ・議会がなければ住民自治にならないし、最終決定権は議会にあるので、民意の代表である議員個々がしっかり判断しなければならない難しさがあると改めて痛感した。
- ・議論を通して論点を発見、公開する必要性を学んだ。

(2) 基礎調査

議員定数を考えるにあたっての資料とするため、「添田町の議員定数と人口推移」、「近隣自治体及び同規模自治体との定数比較」について調査を行った。調査結果については、町民及び団体との対話でも資料として活用した。

ア 添田町の議員定数と人口推移

(人)

期 間	定数 (人)	住民基本台帳の人口
昭和 34 年 6 月 1 日 ～ 昭和 38 年 5 月 31 日	30	
昭和 38 年 6 月 1 日 ～ 昭和 42 年 5 月 31 日	26	
昭和 42 年 6 月 1 日 ～ 昭和 62 年 5 月 31 日	22	20,441 人 (S42. 5. 1)
昭和 62 年 6 月 1 日 ～ 平成 2 年 6 月 30 日	20	15,878 人 (S62. 4. 1)
平成 2 年 6 月 30 日		解 散
平成 2 年 7 月 22 日 ～ 平成 10 年 7 月 21 日	19	15,241 人 (H2. 4. 1)
平成 10 年 7 月 22 日 ～ 平成 14 年 7 月 21 日	17	13,795 人 (H10. 4. 1)
平成 14 年 7 月 22 日 ～ 平成 18 年 7 月 21 日	15	13,179 人 (H14. 4. 1)
平成 18 年 7 月 22 日 ～ 平成 22 年 7 月 21 日	13	12,375 人 (H18. 4. 1)
平成 22 年 7 月 22 日 ～ 平成 26 年 7 月 21 日	13	11,587 人 (H22. 4. 1)
平成 26 年 7 月 22 日 ～ 平成 30 年 7 月 21 日	13	10,814 人 (H26. 4. 1)
平成 30 年 7 月 22 日 ～ 令和 4 年 7 月 21 日	13	10,097 人 (H30. 4. 1)

平成 18 年の人口 12,375 人から令和 3 年 1 月現在は人口 9,360 人で、3,015 人減少している。
その間の議員定数は「13 人」を維持。

イ 近隣自治体及び同規模自治体との定数比較

市議会議員一人当たりの定数別						
自治体名		議員定数 (人)	人 口 (人)	議員一人当たり の人口 (人)	財政規模 一般会計予算 (百万円)	議会費 割合(%)
近 隣	添田町	13	10,025	771	6,879	1.4
	田川市	18	47,998	2,666	28,609	0.8
	香春町	13	11,077	852	5,062	1.6
	川崎町	16	16,926	1,057	11,319	1.1
	糸田町	12	9,185	765	5,265	1.7
	大任町	11	5,252	477	5,373	1.4
	福智町	20	23,037	1,151	13,964	1.0
	赤村	10	3,206	320	2,909	2.2
同規模	上毛町	12	7,673	639	6,143	1.2
	大刀洗町	12	15,611	1,300	6,729	1.2
	桂川町	10	13,605	1,360	6,156	1.1

数値は「町村議会実態調査集計表（平成 30 年 7 月 1 日現在）」より参照。（田川市は除く）

10 議員定数のアンケート調査

無作為に抽出した町民 1,000 人を対象にアンケートを送付。423 通の回答を得た。

◆議員定数アンケート集計結果表（発送日 8 月 31 日：回答期限 9 月 25 日）

（1）集 計

項 目	数	率
回 答	423	42.3
不在返送	5	0.5
無 回 答	572	57.2
計	1,000	100.0

（2）回 答

問	回 答	回答数	備 考
質問 1 性別	A 男性	202	
	B 女性	217	
質問 2 年齢	A 10代	6	
	B 20代	19	
	C 30代	28	
	D 40代	49	
	E 50代	40	
	F 60代	100	
	G 70代	110	
	H 80代	61	
	I 90代	9	
質問 3 住まい	A 津野	23	
	B 庄	97	
	C 添田	173	
	D 中元寺	51	
	E 野田	25	
	F 英彦山	9	
	G 落合	29	
	H 舩田	13	
質問 4 議会活動の入手先	A 議会だより	359	
	B ユーチューブ	6	
	C ホームページ	39	
	D 身近な議員	54	
	E その他	18	
	F 関心がない	40	
質問 5 議員定数	A 多い※	220	率 52.1
	B 現在の 13 人	102	24.2
	C 少ない	3	0.7
	D 分からない	97	23.0
質問 6 定数の判断基準	A 人口規模	278	
	B 面積規模	27	
	C 近隣自治体議員	31	
	D 議員活動状況	166	
	E 財政規模	177	
	F その他	16	
質問 7 議会・議員に求めること	A 行政チェック	248	
	B 情報発信	170	
	C 生活相談	165	
	D 政策提案	162	
	E その他	17	

※「多い」と回答した
方の内訳

適当と思う 議員定数	回答 人数
10 人	112
11 人	38
9 人	21
その他	49

各質問の回答数と総回答数は、未記入による相違あり。

11 町民との対話

令和2年10月に町内4会場で行われた「第2回住民と議会のカタリ場～未来会議～」の中で、定数のことについて対話を行った。これまでの経緯説明や、アンケート結果の報告などを行い、他自治体との定数比較の資料等を参考にしながら、参加者69名の率直な意見を聴いた。カタリ場全体の内容は、別途「第2回住民と議会のカタリ場～未来会議～報告書」に掲載。

◆議員定数に関する意見のまとめ

①議員定数は多い（減らす）

その理由	会場
人口が1万人を切ったから12～11人	中元寺 公民館
多いと思い、アンケートには11人と書いた 話をしてみて、ある程度の人数が必要と思った（12人）	
少なくすれば真剣になるのではないかな	
アンケート結果が出ている。ただ、どうやって(方法)で減らすのか	彦山地区 総合センター
定数は減らして報酬をあげるべき。この地域は住民相談等(道路補修・福祉関係・災害)で本業ができない。報酬で生活が出来ないので立候補者が限られる	
定数11名が限度。意見の多様性を確保するため	
12,000人で13人だったことを考えると多い	津野 公民館
9,000人なら10人か11人が妥当。6,000人になれば6人でよい	
人数が多いと意見がまとまらない	
人口減により考えるべき。職員数も多いと思う	
アンケート結果を尊重すべきでないか	
財政面を考えて	
1人減らしてよい。ただし真面目な議員が減るのは困る	オーク ホール
議員活動は少なければよいというものではない	
委員会は最低5人はいる	
人口1,000人に1人	
10人か11人でよい	
人口が減っている。減らしてよい	
議員に兼業が多い。仕事への情熱や時間が確保できないので、専業でできる報酬にしたらい。年収500万円から定数を算出する（現在の予算内で）	
10人以下でも良いのでは。地域が広いので極端に減らせないが思い切って	

②議員定数は現状維持（ちょうどよい）

その理由	会場
近隣自治体と比べると多くは無い	中元寺 公民館
このような対話があれば、議員の良さがわかる	
町が広いから	
日頃からこのような活動を	
そもそも議員をよく知らない。町の事を本当に考えているのか こんな会議があれば知ることができる	
興奮するような改革イベントができるなら、人数は関係ない	
昔より今の議員のほう頑張っている。ある程度の人数が必要	
減らすと増やせない。議決事項も多いので一定数は必要。 焦って定数を決めるべきではない	
津野に議員が不在。これからも山間部が減る	津 野 公民館
減らすと、意見を言うところなくなる	
添田町が衰退していくなか、議員が少しずつ頑張っているのがわかる。 そのまま活発に頑張してほしい	
働きやすい環境づくり、住民が自分たちでやっていく。	
町の面積が広い	オーク ホール
定数を減らし、変な人ばかりになると困る。議員をよく選ばないといけない	
議員の公務の出欠・遅刻などの数を分かるようにしてほしい	
議員は暇なのか、忙しいのかわからない。少なくすると、ダメな議員が多くなるのでは	
なぜ減らすのか。減らすと若い人や新人が当選しにくい	
意見の多様性が必要。民主主義のコスト	
13人で良い。広いから	
多いとは思わない	
今の人数で住民の声をしっかり聴いてほしい。今はできていない（こうして会場に来られない）。高齢者のお宅に行き、声を聴いてほしい。選挙のときしか来ない	

③議員定数は少ない

その理由	会場
住民の意見の集約ができていない。もっと声を聴きしっかりと議員活動を。定数は20人でもよい	オーク ホール
産廃問題の学習会へも参加数が少ない。もっと参加を	
生活できる報酬が必要	
町民の生活、財務にとって良くなれば多くてもよい	
議員は大変な仕事なので。ただ報酬の兼ね合いがある	

④議員定数はわからない

その理由	会場
いずれは 10 人程度	彦山地 区総合 センター
人口だけでなく、面積、財政も考えなければ	
町、議会への要望は、当地区では議員を通じてではなく、区長や直接要望	
役割を果たしているのかわからない	津 野 公民館
人数が多いと持ち分があるが、少数で担えるのか	
町部だけの議員でよいのか	
誰が議員かも、議員の仕事もよくわからない	
どれだけ添田のことを考えているか、見えてこない	
人数が少なくなると、予算など町のことをちゃんと決定できるのか	
仕事の内容で必要なら減らさなくてよい	
議員は町全体のことを考えて仕事してほしい	
13 人で仕事しているが、実際はどうか議員に聞きたい	
新しいことをしていくことで、人数が減るとますます町が衰退していくのではと心配。 減らす方向でよいのかは疑問	
多いか少ないかの判断基準がわからない	
議員で判断をしないと自分たちではわからない	
地域に議員がいなくても区長がその役割を果たしている。議員は町全体の仕事をしてほしい	
議員が自身で決めるべき。定数より議員の質を高めるため、給料を上げるべき	オーク ホール

⑤その他の意見

町を回る議員であってほしい
議員の活動が見えない
議員に勉強してほしい
説明が何もないアンケートだと、定数などわからないから減らすとなる
少なくなると議員活動ができなくなるのでは
対話の場を設け、話すことができるのはとてもよい
多いか少ないかより議員の活動が見えない。もっと住民と対話を
委員会を 1 つにして全体で考えてはどうか
議員の報酬を出来高制にしてはどうか。基準は町への貢献度
声に対する答えを住民に返してほしい
議員のビジョンが見えない
助言機関があれば。議員のアイデアをサポートする委員会を
議員の仕事をチェックする。選挙前と任期期間を公開する
人数を決める。どんな仕事をしているか次第
執行部のサポートを。役場職員、議員ともチェックだけでなく政策立案して
議員の質の方が大事
報酬も大事。モチベーションを上げたり質の高い議員のため
夜間議会、ボランティア的議員で。北欧で流行っており、兼業議員がいるので
議会が機能し町政が上手く回るのが大事

12 団体との対話

対話する団体を募集して、応募のあった4団体（行政区長会、添田東女性の会、添田町女性ネットワーク、畑川を考える会）と対話を行った。

（1）団体との対話での意見・要望

団 体	意見・要望（アンケートに記載）
行政区長会 (22名) 【開催日】 令和2年10月27日	・我々ももう少し勉強しなくてはと思う。 ・多くの意見を言わせてもらって良かった。 ・若い人が議会に積極的に参加出来るようにしてもらいたい。 ・アンケートで40%の回答は議会に重きを置いていない。 議会の運営を考慮する必要あり。 ・残任期間を大切に活動してほしい。 ・添田町の為に頑張ってもらいたい。 ・議員の見える化をしてほしい。 
添田東女性の会 (6名) 添田町女性ネットワーク (4名) 【開催日】 令和2年10月28日	・町民に説明（現状）する前に一般的なアンケートをとっても、多いか、少ないか、まったくわからない。説明後にアンケートをとるべき。 ・今の議員さん達で町の活動がうまく回っているかどうか、まったくわからない。 ・この会に参加して、少しは理解できたと思う。  
畑川を考える会 (11名) 【開催日】 令和2年10月28日	・町職員も非常に多いと思う。 ・区長会で一昨年行政視察に行った長崎県諫早市は人口160人以上に対し職員は1人、添田町は60人に対し1人。 

(2) アンケート結

団体との対話アンケート集計結果表

問		回答		区長会	女性団体	畑川	合計
問 1	年代は	①	10代				0
		②	20代				0
		③	30代				0
		④	40代				0
		⑤	50代	2			2
		⑥	60代	5	2	9	16
		⑦	70代	14	5	2	21
		⑧	80代以上	1	3		4
参加人数				22	10	11	43
問 2	本日の会は	①	良かった	10	8	7	25
		②	ちょうど良かった	10	2	4	16
		③	あまり良くなかった	2			2
		④	良くなかった				0
問 3	時間は	①	長かった	1	1		2
		②	ちょうど良かった	19	9	8	36
		③	短かった	2		3	5
問 4	本日の会を どうやって知りま したか	①	世帯回覧	7	4		11
		②	ホームページ				0
		③	議会だより		1		1
		④	町の広報紙	2	1	6	9
		⑤	知人、友人	3	3	3	9
		⑥	その他	7	3	2	12
問 5	議会だよりを 読んでいますか	①	毎回読む	18	7	6	31
		②	時々読む	4	2	3	9
		③	関心のある記事だけ読む	2	1	3	6
		④	ほとんど読まない		1	1	2
		⑤	知らない・見たことがない				0
問 6	議員定数のこと						
	今まで関心は	①	あった	15	5	7	27
		②	なかった	7	4	4	15
	会を終えて 考えに変化は	①	あった	13	8	6	27
		②	なかった	8	2	4	14
	13人に対しては	①	多いと思う※	15		6	21
		②	現在の人数でよい	6	8	2	16
		③	少ないと思う				0
		④	わからない	1	2	1	4
		⑤	その他			2	2

※多いと思う（21人）の内訳

適当と思う議員定数	回答人数
9人	3
10人	3
11人	10
12人	3
無回答	2

13 定数委員会の結論

令和2年12月10日に定数委員会を開催。これまでの活動を踏まえ、委員それぞれの考えを自由討論した。その後、定数委員会の最終結論を採決で決定した。

(1) 討論

①「現状維持」の意見

- ・町民1,000人のアンケートに対し423人から回答。これは行政に関心がないなど議会活動が見えてないのではないかと。広聴活動など活発に発信していく方が先である。
- ・委員会の人数をどう考えるか。全国町村議会議長会の発表でも6～7人が妥当であるとの意見もある。当広報委員会も5人を6人にしたい。
- ・委員会の人数は現状が適当。
- ・議員減のメリットは、経費削減、意見がまとめ易い。デメリットは、数人の減では経費減の効果はなく、行政の監視能力が低下、委員会の空洞化、地域の声が届かない。
- ・議会改革や基本条例を論じる前に、定数について論じるのはおかしい。
- ・定数の削減は改革ではない。基本条例の必要性の意見交換や対話不足である。

②「定数削減」又は「定数増」の意見

- ・アンケート、住民との対話、団体との対話を通して民意が出ている。過去、議会のありかたなどは議論してきた。
- ・人口の推移と議員定数が論じられてきたが、14年間維持できた。
- ・委員会ではある程度の人数が必要だと思うが、最低5人必要だと思う。
- ・定数増でもよいが、報酬を削減すればよい。

(2) 採決

① 手順1・・・「定数増、現状維持、定数削減」いずれかを決定する。

委員長を除く委員12名の挙手により採決を行った

結果「定数削減」

挙手の内訳：定数削減 7名

現状維持 5名

定数増 0名



② 手順2・・・削減する人数を決定する。

全委員（13名）で「定数調査票」に削減する人数を記入し、事務局が回収、開票及び内容を読み上げて決定した。

結果「2人削減」

削減人数の内訳：2人削減 9名

3人削減 3名

1人削減 1名



(3) 定数の決定

議員の定数は、現行の13人から「2人削減」して「11人」とする。

(4) 各委員の意見（定数調査票のまとめ）

○定数調査票の集計表

集計	「削減」 7票	「2人削減」 9票
	「維持」 5票	「3人削減」 3票
	「増」 0票	「1人削減」 1票

内 訳

順不同

議員名	畠 田	合 戸	緒 方	久保田	吉 木	岩 本	高 瀬
定 数	削減	削減	削減	現状維持	削減	※	現状維持
削減数	2	2	2	3	2	2	2
議員名	山 本	永 沼	武 貞	中 嶋	小 川	白 石	
定 数	削減	現状維持	現状維持	削減	削減	現状維持	
削減数	2	3	3	1	2	2	

※ 委員長のため、採決に加わらない

○各委員の意見

順不同

氏名	定数	理 由	削減数	理 由（現状維持の場合は無）
畠田勝廣	削減	私は議長として今までの町民アンケートや各団体との対話をもとに削減を決めた。	2人	議員活動及び委員会活動また執行部の監視役としてこれ以上の削減はしなくていいと思う。
合戸精一	削減	人口規模やアンケート結果が民意の全てである。	2人	少ない予算かもしれないが、定数減で余剰となった予算は福祉施設職員の処遇改善に充当してもらいたい。
緒方裕子	削減	・社会情勢が大きく変わる中、町議だけ20年間も現状に甘んじるのは、“オゴリ”以外の何ものでもないと思う。	2人	諸先輩方が行った前回までの削減の方法に倣い、奇数を保ち議長決裁にて、可否の判断の状況を保つため。
久保田実生	現状維持	・削減は改革ではない。 ・基本条例の制定もしないままに議会力を低下させるのは自殺行為。 ・住民の声は「もっと議会として働け」であり、その声に応える活動が必要。 ・常任委員会が5人では少ない、委員長を除く4人での審査が前提となる。	3人	
吉木清文	削減	人口減少により、民意に沿って決断。	2人	これ以上減らせば議会が成り立たなくなるのではと思う。
岩本 正	※		2人	・アンケートの結果を尊重すべき。 ・民意を行政に反映させるのが議員の務めである。
高瀬知恵子	現状維持	添田町の面積は広いし、住民の意見をきくためには現状維持がよい。	2人	
山本文隆	削減	・民意を尊重。 ・人口減と2委員会の維持。	2人	人口減はあるが、2委員会を維持する為には2減が適当と考える。
永沼嘉代子	現状維持	・委員会構成人数が減ることで、多面的意見が出にくくなる。 ・広聴活動等、住民に寄り添った活動にもっと力を入れていくためにも現状維持が必要。	3人	

氏名	定数	理 由	削減数	理 由（現状維持の場合は無）
武貞誉裕	現状維持	・数人削減しても、財政的には、ほとんど影響しない。 ・削減後どう議会を運営するか一切話されていない。 ・今後の困難な財政運営を見すえ、さらに監視機能を高める事が必要。 ・無策な削減は危険。	3人	
中嶋浩二	削減	本来議会は多数の議員の意見をまとめ、多くの町民の声を行政に反映させることが大事と思う。 しかしながら、町民の方々の意見としては定数減が半数を超えている点も考えなければならない。 町民の声の中では、住民数の割合と比較して多いとは、財政を考えた事と聞く。それを考えると議員報酬をへらし定数を2名位増すのがベストと考えたが、報酬減の意見がないので定数減もいたしかたない。	1人	1人では財政的にあまり効果がないと思うが、民意をくみ上げる為やこれからの議会活動の為、1名とするのがよいと考える。ただし、それと同時に議員報酬のさく減を望む。
小川浩一	削減	・人口減少が進む中、削減はさけられない。 ・今回を最終に、定数問題にけりをつける。	2人	人口減少が進む中で議員定数の問題が取り上げられたが、議会としての機能を行うには、最低定数があると思われる。 各常任委員会の人数がある程度いないと活発な討論は行われず、議会としての機能を有しないと思うが、定数減が避けられない中、現在よりも1名減では再度定数問題がでてくると考えられる。 そう考えれば今回2名減と考え、今後これ以上の削減は考えないようにするべきではないか。 よって2名減にした。
白石雄二	現状維持	定数削減による財政効果は小さい。むしろ失うものの方が大きいと思う。	2人	

14 終わりに

本町では、本格的な少子高齢化や人口減少が進んでおり、少子化対策や地域経済の活性化、自然災害の対応など解決すべき課題が山積している。

これからの議会は、自治体経営の一翼として、多様な民意を反映させ、政策立案や監視機能をより効果的に発揮していくことが求められている。

今般、本特別委員会は、適正な議員定数を、現行の13人から2人削減の11人とする調査研究結果をまとめたが、議員定数の削減によって議会の弱体化を招くことがないよう、議員一人一人が不断の努力により資質の向上に努め、住民から信頼される議会を目指し、調査完了の報告とする。

以上